

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 8名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	381000139
事業所名	グループホーム 伊予あいじゅ
(ユニット名)	澁
記入者(管理者)	
氏名	岩佐 節子
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 家庭的な環境で日常生活支援や機能訓練を実施することにより、入居者に有する能力を生かしながら自立した生活を送れるよう支援してまいります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 約1年前に移転新築された5階建ての高齢者総合福祉施設の2階部分に事業所はあり、建物の窓から、瀬戸内海や夕日の絶景が眺められるほか、市街地を見渡すことができる。新築の複合施設は気持ち良く、利用者は穏やかな生活を送ることができる。広々とした敷地内には、独自の愛寿四国八十八か所へんろ道が設置され、寺の番号と名称等が貼られた木碑が建てられ、海を眺めながら、散歩や足湯を楽しむことができるようになっている。法人は、松山市を中心に県内で高齢者福祉施設や介護サービス事業所などを展開しており、開設1年目であるが、建物には特別養護老人ホームなどが併設され、管理者をはじめ、高齢者施設などで介護経験の豊富な職員のほか、看護師も配置され、利用者には安心感がある。調査調査日には、職員が利用者からゆっくりと話を聞いたり、利用者同士が和やかにゲームや季節の飾りつけをするなど、利用者により身近な様子を見ることができた。地域の秋祭りの際に、複合施設の駐車場に、100名以上の子どもが参加した子供神輿の来訪があり、利用者と一緒に楽しむことができた。今後は、複合施設の利用者同士の交流のほか、広い駐車場や1階にあるイベントスペースを活かして、事業所の特徴を活かした地域との交流が行われていくことも期待される。</p>
--	---------------------------------	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の会話や訴えから、希望や困りごと等を聞いて、職員間で共有している。	◎	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向などを聞き、基本情報の主訴や要望欄などに、記録を残している。また、日々の生活の中で、職員は声をかけ、利用者から思いや希望を伝えてもらったり、言葉を発することが難しい利用者には、表情や様子を観察したりしながら、思いをくみ取るよう心がけている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情、言葉、しぐさ、行動等から要望を把握して、安心、納得できるように検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、親戚、友人等と電話や面会時等に、本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	基本情報、アセスメント表に記録して職員間で情報共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みや決めつけにならないよう、入居者の思いを大切にできるように話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	主に入居前に興味や嗜好、生活歴を家族や本人に聞くが、本人からは入居後、生活に慣れてから話されることもある。本人の趣味や要望等を情報共有している。	/	/	◎	入居前に、可能な限り、管理者や計画作成担当者は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活のこだわりなどを聞き、フェースシートやアセスメントシートに取りまとめて記録をしている。また、入居後にも、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記を行うなど、職員間で共有をしている。さらに、入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスに至るまでの経緯や状態などの情報を提供してもらうこともある。アセスメントシートの情報は、介護計画の更新時に合わせて、更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中での関わりから本人の状況を把握している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の関わりを記録する中で、普段と違う言動等が見られたら具体的に記録して職員間で情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が求めているもの、必要としていることを、本人の立ち場で検討している。	/	/	/	○ アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者にとって何が必要で、何を求めているかを、利用者や家族から意見や意向を聞くとともに、利用者ごとの担当職員や計画作成担当者を中心に、主治医や看護師、職員を交えて検討をしている。医師などの関係者が会議に参加できない場合には、事前に指示やアドバイスをもらうようにしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	検討した内容に基づいて、本人がより良く暮らすために、どうしたら良いか課題把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族の意向、本人の要望に沿って介護計画を作るようにしている。	/	/	/	○ 担当職員や計画作成担当者、看護師を中心に、把握した情報をもとに、カンファレンスの中で話し合い、介護計画を作成している。利用者や家族から出された意見や意向に沿えるような個性のある計画の作成を心がけている。また、主治医等から指示やアドバイスをもらうほか、職員から出された意見や提案をサービス内容などに反映をさせるように努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	課題やケアのあり方について、家族、本人、看護職員、介護職員、栄養士等と話し合い、意見やアイデアを反映して作成している。	/	○	/	
		c	重度の利用者に対してでも、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方に対してでも、慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができるよう内容になるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ感染対応として、家族、地域の方の直接支援はできていないが、意見やアドバイスを頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録をする時に介護計画の内容の確認をするようにしている。	/	/	/	○ ユニットごとに開催するカンファレンスに参加し、職員は介護計画の内容の把握に努めるとともに、介護計画と日々のケア記録が利用者の個別ファイルに綴じられ、計画を確認することができるようになっている。計画に沿ったサービスの実施状況を、計画に日々の記録に残すとともに、実施できなかった場合には、理由を記録に残している。また、月1回実施するモニタリングの際に、サービスの実施状況を参考にして、利用者の現状の確認をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿ったケアができなかった時には、その理由を記入している。職員間で状況確認を行っている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。	/	/	/	◎ 入居後に暫定の介護計画を作成し、観察をしながら状況に応じて見直しをするとともに、その後は、短期目標などの期間に合わせて、6か月を1回を基本に、計画の見直しをしている。また、担当職員を中心に、月1回モニタリングを実施し、利用者の現状の確認をしている。さらに、利用者の状態に大きな変化が生じた場合には、随時話し合って見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状況に変化が生じた時は、家族、多職種の職員と話し合い介護計画を見直している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ワーカー会を毎月行い気付いた事を話し合っている。毎日の申し送り、緊急時は、都度「どうしたら良いか」の話し合いを行っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニット合同でワーカー会を開催し、情報共有をするほか、課題などを意見を出し合いながら話し合いをしている。事前に、なるべく多くの職員が参加できるように日程調整を行い、職員に検討する議題を出してもらうなど、有意義な会議となるよう努めている。また、参加できなかった職員を含めて、会議録を確認してもらい、情報共有に繋げている。さらに、緊急案件のある場合には、その場にいる職員同士が相談して迅速に対応している。対応した内容は記録に残すとともに、重要事項は口頭で伝え、全ての職員で共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	議題や日頃気付いた事をメモして司会者に出したり、意見交換ができるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	開催日や場所を工夫し、参加できない職員には会議録を回覧して確認してもらっている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日の朝夕の申し送りや情報伝達を行い、重要な事項は、申し送りノートやメモで伝わるようにしている。	○	/	/	◎ 日勤と夜勤の交代時に、申し送りノートを活用して、朝夕の申し送りを実施している。出勤時等に必ず申し送りノートやメモを確認し、確認後に職員は押印するなど、情報や伝達の漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人に直接「何がしたいか？何をしたくないか」と聞いて、叶うように努力している。	/	/	/	◎ 日々の服装選びや余暇時間の過ごし方、飲み物など、日常生活の様々な場面で、職員は利用者に声をかけ、一人ひとりのペースや希望に合わせて、選択や自己決定してもらえよう支援をしている。また、利用者は好きな花を生けたり、ナンプレを解いたり、職員がレクリエーションを提案するなど、楽しみや喜びのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	準備、声掛けで提案、本人に決定してもらうようにしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人の生活のペースや習慣に合わせて、希望を聞きながら支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	名前を呼ぶ、挨拶、声掛けをして目を合わせ、利用者から笑顔や明るい言葉が返ってくるような雰囲気作りを心がけている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	傍に時間を作り、本人の表情、しぐさ、反応等を見ながら、本人の意向に沿った生活が送れるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	入居者への会話は、基本敬語で話そうにしている。方言が入ったりはしている。トイレ等デリケートな事に関しては、耳元で話そうにしている。	◎	○	○	◎ 人権や尊厳を内部研修等で学び、職員は利用者を尊重した言動に努めている。耳が聞こえない利用者には、プライバシーに配慮して、筆談でやり取りを行うなどの工夫をしている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、入室の際に、ノックや声かけをしてから必ず入室することを職員に周知徹底を行い、不在時にも、リビングにいる利用者に声をかけて、了解を得てから入室をするようにしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄や入浴(1対1)時には、不安や羞恥心、プライバシーに配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には、ノックをして声掛けしながら入り、居室に入る時は、あらかじめ本人に了解を得て入っている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏洩防止は、入職時に誓約書を交わし、書類の管理も十分な配慮を行っている。プライバシーの保護については、理解し遵守している職員が多い。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が教えて貰ったり、助けて貰ってお礼を言う関係を作っている。	/	/	/	約1年前の事業所の開設時に、ほとんどの利用者は、自宅や病院から入居に至った経緯があり、現在は利用者同士の大きなトラブルは起こっていない。職員は利用者の性格や関係性などを把握し、配席を考慮するなどの工夫をしている。また、食事の下膳や洗濯物干しを一緒に手伝うなど、利用者同士が助け合う場面も見られ、職員は温かく見守りをしている。さらに、事業所には女性の利用者が多く、男性の利用者が孤立をしないように、職員はこまめな声かけを行い、全ての利用者が和やかに過ごせるような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が支え合って共同生活ができるよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	入居直後は、緊張や不安な様子も見られるが、先輩利用者や世話好きの方からの話しかけ、気配りによって仲間意識も芽生えている。雑誌の貸し借り、色鉛筆の貸し借りなどでも交流が図れている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	入居者同士、トラブルになりそう時は、職員が間に入り、場所を変え(部屋に帰る等)、時間を空けたりしながら、双方の話を聞いている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族からの情報と、入居後の本人との会話から、人間関係やなじみの場所等について、把握している職員と把握できていない職員がいる(夜勤が多い、新人等)。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ感染対応の為、支援できていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ感染対応の為支援できていない。	○	×	○	感染対策が続き、外出制限は設けられていたが、徐々に緩和され、天気の良い日には、屋外に出て敷地内を散歩したり、外気浴をしたりすることができている。訪問調査月には寒い日が続き、屋外に出ようとする利用者は少ないが、敷地内ある遊歩道に、独自の愛寿四国八十八か所へんろ道が設けられ、利用者は散歩ができるほか、足湯を楽しむことができようになっている。利用者の納経帳が用意され、暖かくなれば、お参りすることを予定している。また、数名ずつの利用者で、ドライブに出かけて、双海まで海や菜の花を見に行き、人混みのない場合には、車から降りて景色を見て楽しむなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。春には、花見に出かけることを予定している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染対応の為支援できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者一人一人の認知症状を把握しているが、正しく理解しているかはわからない。他職員、多職種で話し合い、要因をひもとき取り除く支援をしている。	/	/	/	利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、アセスメントシートに詳細に記載し、職員間で共有をしている。できることは自分でしてもらうほか、職員が必要以上に手や口を出し過ぎず、一緒に行ったり、見守りやできない部分のサポートをしたりしている。また、歩行や体操などを取り入れたり、考えながらナンプレをしたり、生活リハビリを取り入れるなど、利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前にリハビリ体操、口腔体操をしたり、歩行、洗濯物干し、畳み、脳トレ、トイレに行く等、機能を維持、向上できるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	「できること、できそうなこと」は見守り、励まし、一緒に行うようにしている。して貰いたい、して貰えないと寂しそうな時は、回数やタイミングを見て介助することもある。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴、習慣、希望、持っている能力、得意なことに合わせて、新聞を読む、脳トレ本、テーブル拭き、歩く等支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、テーブル拭き、新聞でのごみ箱づくりなど、職員は声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	レベルに合わせてできる事(機嫌が良い日は、自分で箸でハン、肉、ジャガイモを挟んで食べる等)を見出し、張り合いや喜び、役割があるように取り組んでいる。	○	×	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	衣類やひざ掛けなどの小物は、寒がりや暑がり、色、肌触などの好みと希望を聞いて、把握している。				整容の乱れや衣服の重ね着などが見られた場合には、職員は利用者のプライドに配慮をしながら、さりげなく声をかけてフォローするなどの対応をしている。各居室には洗面台が設置され、起床時に、職員は声をかけ、服を着がえ、整容や身だしなみを整えている。中には、自分で化粧をして、おしゃれを楽しむ利用者もいる。また、月1回訪問理容の来訪があり、1階にある専用の部屋で、鏡を見ながら好みの髪型に整えてもらっている。さらに、重度の利用者も楽な姿勢で、負担がかからないように散髪をしてもらったり、家族が持参した好みの服を着たりするなど、本人らしさが保てるような支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入居者一人ひとりの個性に応じて、髪型、服装、持ち物など本人の好きなもので整えられるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	似合いそうな洋服を何着か出して、本人に提示し、選んでもらうよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出や行事に合った、その人らしい服装を支援している。手持ちの服が少ない。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	髪、身だしなみ、汚れ、食べこぼしは、介助しているが、他の利用者が職員より先に気づくこともある。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設に来てくれる理美容師の方に希望等伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	要望等が言えない方には、家族に聞いたりして髪型や服装を工夫している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	施設で一括調理となっている。ユニットで炊飯は行っている。				複合施設内にある厨房で調理された温かい食材が事業所に届けられ、各ユニットで炊飯を行い、利用者に食事を提供している。利用者は下膳やテーブル拭きなどを手伝うことはあるが、調理や食材の下準備などに携わる機会はないため、月1回利用者と一緒におやつ作りをしている。入居時に、アレルギーの有無を把握するとともに、法人の栄養士が、利用者の嗜好調査を行い、献立の中に反映するようにしている。茶碗や箸は、入居時等に持参した利用者が使い慣れた物を使用するとともに、食器類は事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策もあり、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、利用者とは別の場所と時間帯に持参した食事を摂っている。また、リビングにあるホワイトボードには、その日3食の献立が分かりやすく記載され、食事中にテレビを消して、ゆったりと食事を味わえるような雰囲気づくりをしている。さらに、食べにくいようなメニューがある場合には、栄養士にその都度伝え、対応してもらうこともできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設で一括調理となっている。おやつ作りの時はできる事を手伝ってもらっている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	入居者と一緒に買い物等、調理、盛り付けはできませんが、おやつ作りを一緒にやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族からの聞き取りにてアレルギー等の有無を厨房と情報共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	好みや医療的に制限があるもの、アレルギー等を把握しながら、旬の食材や、音懐かしいものを献立に取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人一人の咀嚼、嚥下状態を把握し、厨房に伝えている。ユニットでキッチンバサミで固い食材だけ食べやすい大きさにカットしている。彩など、盛り付けの工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、箸、スプーン等、自宅で使っていたものを使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	感染症予防で、一緒に食事は出来ていないが、一人一人が自分のペースで食事ができるよう見守りしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	×	該当なし		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人一人主食の量を測り、食べられる量にしている。水分摂取量も配った量、飲み残しの量を測り、記録し、過不足がないかをチェックしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	個々に声掛けしながら食事の形態や水分摂取量の少ない方には、おやつで補食、好みの飲み物やジュースで補えるよう工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一括調理なので、栄養士が1日のカロリー計算を行い、バランスの取れた食事の提供ができています。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	施設厨房で調理なので、厨房で衛生管理を行っている。ユニットでは、冷蔵庫内の清掃を定期的に行い、おやつ等の賞味期限もチェックしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性、重要性は理解している。	/	/	/	歯科医から指示やアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、居室にある洗面台で、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや磨き残しなどの介助をするともに、口腔内の状況の確認をしている。中には、自分で歯磨きができる利用者が、口を開けて口腔内を見られることを拒む利用者もあり、口腔内の確認ができないため、歯科医に相談するほか、声かけの仕方などの様々な工夫を重ねている。また、利用者や家族が希望する場合には、義歯の不具合など、訪問歯科の診療を受けることもできる。管理者は、「入居時に、利用者に歯科受診をしてもらい、口腔内の状態を把握し、異常時にすぐに気付いて対応できるようにしたい」と考えている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、口腔内の確認をしている。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	毎月1回開催の歯科医の研修に参加し、資料に目を通して知識を得るようにしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、声掛けし義歯の洗浄手入れを行っている。夜間は、歯洗浄剤で除菌をしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後の支援を行い、不具合があれば訪問歯科等で治療を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄支援を行っている。排泄のリズムを把握して、トイレ誘導を行っている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状態やタイミングに合わせて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。こまめなトイレ誘導をすることにより、紙パンツとパッドを使用していたが、パッド使用の必要がなくなった利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、紙パンツやパッドなどの適切な排泄用品の使用や変更を話し合ったり、パッド類を過剰に使用していないかを検討したりするなど、利用者一人ひとりに応じた排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は理解している。排泄記録から介護職員と看護師に報告している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々に排泄パターンを把握して誘導し介助している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレの場所の分からない方には、付き添って誘導する。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一人一人の状態に合わせて支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	一人ひとりに合わせて声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	好みや排泄状態、時間帯に合ったものを選択し、本人や家族と話し合いながら支援している。(ごまごまして嫌なパッドは辞めてみる等)	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	入居者に同意を得ながら一人ひとりに合わせて適時使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	できる限り薬に頼らず、自然排便ができるようリハビリ体操をしたり歩行したりと身体を動かせるようにしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回の入浴している。入浴前に声を掛け、希望されたら浴室に案内し、1対1でその方に合った、湯加減と時間で行っている。	◎	/	○	週2回、午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。利用者の状態や希望に応じて、入浴できる時間帯や曜日、湯の温度、湯船に浸かる長さなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。浴室にはリフトが設置され、立位が困難になった利用者にも、安心安全に湯船に浸かることができるようになっている。また、家族に持参してもらい、好みのシャンプーなどを使用することができ、利用者によりリラックスしてもらいながら、入浴できるように支援を心がけている。今後、管理者は、「週2回以上入浴したいと希望があれば、時間帯の相談の必要はあるが、対応していきたい」と考えている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	1対1で個浴で、ゆっくりと入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	手が届く、自分で洗える所は洗う、職員が支えて浴槽の淵をまたぐ等、できることはケガの無いように支えたり、見守る。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いしない。嫌がる、返事が重い時は、時間を置いて再度声掛けしても、嫌がられたら翌日、声掛けする。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に、バイタルチェックを行い健康状態を把握している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターン(夜のトイレ回数は把握できている。	/	/	/	入居前から継続して、睡眠導入剤などの服薬をしている利用者があるものの、主治医に状態を伝えてから相談を行い、1日の過ごし方や支援方法の検討を行い、副作用などの考慮するなどの総合的な支援に努めている。中には、眠れないことが続き、不穏な状態の利用者には、医師に相談して、服薬に繋がる場合もある。また、外気浴や体操、歩行などを取り入れ、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転で不眠になっている方には、日中の過ごし方に工夫をし、活動ができるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方や出来事を把握している。気になる入居者に関しては医師に相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入居者一人一人の状態に合わせて心身の休息がとれるよう昼寝の声をかけたりしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人からの要望がある時は、電話など支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	届いた手紙を読まれたり、職員が代読した。「手紙を書いてみませんか?」「電話をかけてみませんか?」と声かけている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	声をかけたり、希望される時は支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人からの要望がある時は、気兼ねの無いように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	契約時にお小遣いの所持はできないことを説明し、了解を得ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染予防のため、現在は買い物できていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	金銭管理ができない方にはお金を所持できないことを家族に説明している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	同上	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	同上	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人、家族の状況に合わせて支援している。	◎	/	○	感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、現在は時間や人数等の制限付きで、1階ロビーで家族との面会ができるようになってきている。また、その時々利用者や家族の希望やニーズが出された場合には、可能な範囲で柔軟に対応している。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	グループホームは2階なので、コロナ感染予防のため、1階ホールでアクリル板を挟んで面会を行っている。	◎	○	○	5階建ての複合施設の2階部分に事業所はあり、玄関アプローチの部分がシンプルで、すっきりとした佇まいとなっている。事務所にいる職員はガラス張りの玄関扉から、来訪者に気づき、声かけをしている。また、十分な広さの駐車場が完備され、家族等は車で来訪しやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ユニット内は、季節感が味合えるような環境作りを努めている	◎	○	○	<p>広くて明るいリビングには、ソファが置かれ、ゆったりと利用者はくつろげるようになっている。各ユニットにある窓から、海の絶景や夕日を眺めることができる。また、各ユニットに春を感じる装飾が行われ、利用者に季節を感じられるようにしている。開設して約1年の複合施設の建物は気持ち良く、清掃や換気、整理整頓が行われ、空気清浄機が置かれるなど、快適な空間となっている。さらに、敷地内には独自の愛寿四国八十八か所へんろ道や足湯が整備され、利用者は海の景色を眺めながら、散歩をすることもできる。複合施設の1階にはイベントスペースも設けられている。</p>
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	消臭剤の使用もあり、不快な臭いには気を付けている。も定期的に行っています。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとの壁面構成にしたり、心地良く生活できるようにしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでは気の合う方同士で話をしたり、ソファに座ったり、物作りをしたりして心地よく過ごせるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	椅子、本人手作りの花瓶、座布団、服等家で使っていたものを持ってきて、生活してもらっている。	◎		○	居室には、ベッドやタンス、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者は、テレビや馴染みの家具、雑貨類を持ち込むことができる。中には、得意な洋服で、自分で作った服を飾ったり、好きな本を並べたりするなど、個性のある居心地の良い空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人ひとりのできることが、今後も継続できるように支援している。			○	<p>居室の入り口には、小さめのネームプレートと手作りの飾りを付けてしている。現在、自分の居室の場所を迷う利用者はいない。トイレの表示も、ピクトグラムで分かりやすく表示している。また、居室のタンスには、仕分けが分かりやすいように、衣類別の表示を貼っている利用者もいる。さらに、カレンダーは数字が大きく、見やすい物を使用している。加えて、新聞や雑誌類、色鉛筆などを利用者の目につきやすい場所に置き、手に取りやすいようにしている。</p>
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞、雑誌、パズルは手が届くところに置いている。プランターを置く予定にしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことによる異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	居室に鍵はかけていない。2階にグループホームがあり、出入口にロックがかかる。散歩やイベントで1階ホールへ行っている。	◎	◎	○	<p>複合施設の玄関は自動ドアで、日中に屋外から入ることができるが、2階にある各ユニットの出入り口はオートロックで施錠され、タッチパネル式で開錠するようになっている。中には、気持ちが落ち着かない利用者もおり、声かけをする職員の様子が見られ、外に出たい気持ちや不安感に寄り添いながら話を聞いたり、一緒に1階に降りて屋外を散歩したりするなどの対応をしている。</p>
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	契約時に2階に有る為、安全を考慮してオートロックで施錠しているとの説明をして了解を得ている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の情報と日々の申し送り等で情報を共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定して記録に残し、朝夕の申し送り等で情報共有を行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば、管理者や看護師に伝え、状態を医師に報告して対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	今までの受療状況に合わせて、本人や家族が希望する医療機関を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族が希望する医療機関を受診している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族に連絡して了解を得た上で受診をし、家族が同行できなかった時は、受診結果を家族に連絡している。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	×	現在入院はないが、入院になる場合は情報提供していく。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	×	同上				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の関わりの中で、いつもと違うことがあれば、看護師や管理者にしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも看護師と連絡がとれるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定、状態観察を行い、早期発見、早期治療ができるようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	職員は、一人ひとりの薬の用法、用量の理解はしている。状態変化があれば、記録に残して看護師や管理者に報告し、家族や医師に情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬の重要性を学び、医師の指示通りに内服できるようにしている。職員が2重チェックを行い、本人と一緒に確認し、飲み込むのを確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化、日々の様子観察をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	×	該当者なし(契約時や状況変化時に、事前意向の確認をとるようにしている。)				事業所では、「重度化した場合における対応の指針」「看取り介護指針」を整備し、入居時に家族等に対応できることなどを説明し、同意や意向の確認をしている。訪問調査月に、状態が変化した利用者があり、家族から「馴染みの環境で看取り支援を行ってほしい」との希望が出され、訪問調査日には、家族と主治医、事業所の看護職員を交えて、カンファレンスが予定されていた。事業所が開設して初めての看取り介護となるが、約半数の職員は、以前勤務していた事業所や施設で看取り支援の経験があるほか、令和6年に入り、看取り支援の研修を実施している。また、主治医も事業所での看取りに協力的で、医療連携を図りながら方針を共有し、穏やかな終末期を迎えられるようにチーム体制で支援に取り組んでいる。看取り期には、居室内で家族と一緒にゆっくりと過ごすことができるようにしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	×	該当者なし(重篤状態になれば、医師と家族と看護職員などが直接面談し、状態の説明を聴くようになっている。)	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	どこまでの支援できるか話し合い、看取り介護として精一杯支援したい。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	×	該当者なし。医師から看取りとして支援するようにと指示があれば、家族との話し合いにより看取りのケアプランを作成する。看取りのケアプランに基づいて支援していく。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	家族、医師、看護師、栄養士、介護職員等で話し合い支援ができるよう取り組んでいく。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	×	家族との連絡を密にとりながら思いを共有できるように努めていく。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	施設内研修会に参加し、感染症の予防、発生時の対応は施設全体で取り組んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザはマニュアル周知しシュミレーションをしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政、保健所からの情報、産業界、インターネット等を通じて情報を入手し対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は、手洗、うがいなどを行い、利用者や来訪者にも清潔が保たれるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	コロナ感染対応中で一緒にという状況にない。面会、おやつや手紙、花、本等の差し入れて、本人を支えて行く関係にある。	/	/	/	全ての家族に、運営推進会議の案内を送付し、今年に入り、会議に家族してもらえるようになってきている。感染対策で、一部制限が設けられているものの、複合施設の1階ロビーを活用して、家族との対面の面会ができるようになっている。また、令和5年12月から事業所の「なぎ・みお便り」の発行を開始し、写真入りで利用者の日常の様子が家族に伝わるようにしている。感染対策で、開設当初から家族が事業所内に入る機会がないため、今後は、居室の様子を伝えたり、職員の紹介を掲載したりするなど、家族が知りたい内容を事業所便りに掲載していくことも期待される。さらに、家族への毎月のモニタリング表の送付に合わせて、管理者は、利用者の写真を同封することを予定している。加えて、連絡手段を家族の要望に合わせて、電話連絡のほか、メールやSNSを活用できるようにするなど、職員間で検討していくことも期待したい。加えて、複合施設内には、希望があれば、宿泊できるように家族宿泊室を完備している。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染対応中で、活動に参加できないが、解除時は家族と活動ができるよう計画を立てている。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	「便り」の発行は準備中なので、今後は、定期的に発行して生活ぶりを情報発信したい。面会や電話時に生活ぶり等を伝えている。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	日常生活の様子(認知症状、接し方等)を説明しながら、より良い関係性が保てるよう支援していく。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議の議事録、毎月のモニタリング、健康チェック表などで情報提供している。運営上の事柄や出来事について情報発信していきたい。	×	/	△		/
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に家族に、起こり得るリスクを説明している。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が気軽に話しやすい雰囲気を作るようにしている。家族との信頼関係を構築していく。	/	/	○		/
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	その都度説明を行ったり、文書を送付している。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の事例はない。そういう状況になれば家族に必要な説明を行い、納得、了解を得る。次の入居先の紹介等支援できるように努める。	/	/	/		
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方に内覧会の案内状を出した。運営推進委員会に参加していただき、理解していただく。	/	○	/	複合施設の周辺には民家や畑などがあり、事業所のある建物が津波対策もあり、少し高台に立地している。散歩の際に、日常的に地域住民と出会うような環境までではないが、複合施設として、自治会に加入し、管理者は、「地域行事にできるだけ参加していきたい」と考えている。地域の秋祭りの際に、複合施設の駐車場に、100名以上の子どもが参加して、子供神輿の来訪があり、利用者と一緒に楽しむことができた。複合施設の利用者同士の交流のほか、広い駐車場や1階にあるイベントスペースを活かして、事業所の特徴を活かした地域との交流が行われていくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ感染予防対応で、地域の活動や行事への参加は少ない。祭りには、地域の子供神輿が玄關前に神輿を据えて、祭りの気分を味あった。	/	×	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	地域の秋祭りへ参加できた。職員は、地域の方に挨拶など行っている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方々との交流を図っていききたい。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	出勤、退勤時近所の方に会えば、車内からでも会釈をし、親近感が持てるよう努めている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	感染対応中のため、ボランティア、地域の方の施設内での支援は遠慮して貰っている。秋祭りで子供神輿を玄關前に据えて貰った。入居者の外出には制限あり。理美容は外部から月1回、来てもらっている。	△	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	理美容は、月に1回外部から来てもらっている。豊かな暮らしができるよう、地域との関係を深めていききたい。	△	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	市役所の介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、家族等参加して頂き、意見交換している。	○	/	/	運営推進会議は、複合施設の1階会議室で、奇数月を基本に開催をしている。書面開催となることもあったが、対面での会議が開催できるようになり、家族のほか、民生委員や市担当者、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開催をしている。会議では、事業所や利用者の様子を写真で説明しながら、事業所の取り組みなどを報告を行い、参加メンバーから意見や提案を出してもらい、意見交換をしている。終了後には議事録を作成し、参加メンバーと全ての家族に送付をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	入居状況、介護事故やヒヤリハットの状況、取り組み(写真)等を報告して意見交換を行っている。会議録にまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	多くの方が参加できるよう、日程調整を行っている。	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人理念に基づき、地域密着サービスとしての事業所理念を職員と考え実践できるよう努めている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	グループホーム便りに載せ、家族、運営推進委員会に配布する。	△	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	年間計画を立て、今年度は特養の研修に参加した。職員の知識や介護技術の向上に努める。	/	/	/	法人規模が大きく、代表者が事業所に来訪することは少ないが、日常的に、複合施設の施設長と副施設長の来訪があるほか、日頃から管理者は副施設長に相談をしたり、職員から出された意見などを伝えたりすることができている。職員の聞き取りから、「休暇のほか、休憩時間などしっかりと確保してもらっている」との意見が聞かれ、待遇にも満足をしている。また、定期的に、職員にストレスチェックの実施するほか、職員から相談がある場合には、管理者等は迅速に対応できるような環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体で介護技術や知識の向上に努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格手当や給料のベースアップ、法人の勤務時間数に対しポイントを付与している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	感染対応で自粛している。感染状況を確認しながら今後はネット等での研修に参加して、職員の意識向上を図っていく。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックの実施により環境整備を行っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	不適切チェックシートを活用し虐待や不適切なケアを見逃さないように努めている。	/	/	◎	定期的に、内部研修を実施し、どのような行為が虐待や不適切ケアにあたるのか繰り返し学び、職員の理解促進に努めている。また、3か月に1回不適切ケアチェックシートを活用して、一人ひとりの職員が記載するとともに、チェックができていない部分を振り返り、今後どのようにしていくかを考えられる内容となっている。また、気になる行為が見られた場合には、申し送りなどを活用して、話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝夕の申し送り等で、ケアを振り返ったり、意見を交換している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者が気を付けて声掛けしている。ストレスチェックの診断(1/年)をしてもらい、各自に結果を渡し把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束適正化の研修を受けて理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	不適切ケア自己チェックをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	事例はない。今後要望がある場合は、施設の身体拘束適正化の具体的な内容を説明して理解してもらおう。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見制度について研修する機会を持ち、知識の習得に努める。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	事例はない。相談があれば地域包括支援センターや専門機関に連絡する。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変、介護事故発生時のマニュアルはある。勉強会、シミュレーション等行い、知識を得るよう努める。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的シミュレーションを行い、慌てず適切な対応ができるよう努める。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハットと思う場面を観たり、感じた時は、書式に記載し送りし、周知するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態の把握に努め、リスクを検討し事故予防に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応の書式に記載して、どう対応すべきか考え、改善に努める。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情の内容をまとめ、どう対応をすべきかを話し合い速やかに対応していく。また、複雑な問題に関しては法人内で話し合い、必要であれば専門機関に相談する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情、要望の内容を検討して速やかに対応を行い、家族に伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会、電話、来所時等に、事業所職員が要望等を聞いている。運営推進会議に家族、入居者に参加して頂き、直接、意見・要望を聞くように努めていく。	◎		◎	日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者に声をかけ、意見や要望を聞いたり、言動や表情から思いなどをくみ取りたりするよう努めている。家族からは、介護計画の更新時のほか、電話連絡時や面会時に、職員は利用者の近況を伝え、意見や要望を聞くようにしている。今回の外部評価の利用者家族等アンケートの結果を受け、管理者等は、家族から出された意見を真摯に受け止め、対応していくことを考えている。また、管理者は職員と一緒に業務に従事し、日常的に職員から意見や提案を聞き、検討をして対応をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	直接、苦情や相談ができるよう窓口を作っている。公的な窓口の情報を伝えている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	直接、職員の意見、要望を聞くようにしている。改善すべき事は、職員を交えて話し合うようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員1人一人の意見や提案を聞き、入居者中心のケアができるよう努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行っている。				今回の外部評価で、サービスの評価結果をもとに、目標達成計画を作成するとともに、運営推進会議の中で、参加メンバーや家族に報告を予定している。また、目標達成の取り組み状況の経過を伝えながら、意見やアドバイスをもらう機会を設けてるとともに、モニターとしての役割を担ってもらえるように取り組みを予定している。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	初めての評価(自己・家族・地域・外部)の結果を踏まえて、実現可能な計画を作成して取り組んでいく。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	初めての外部評価なので、運営推進会議に報告し、意見等を聞き、改善に努めている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ワーカー会の議題にあげ検討していく。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し職員の意識を高めるようにしている。	/	/	/	事業所のある複合施設は、市行政から福祉避難所に指定され、水や食料などの備蓄品を用意している。建物は海に面し、津波の危険性がある場合には、2階以上に垂直避難を予定している。複合施設と合同で、消防署の立ち会いを得て、火災等を想定した避難訓練を実施し、利用者に見立てた人形を活用して、2階にある非常階段を使用して、避難を体験している。今後は、避難訓練の様子を運営推進会議の参加メンバーや家族に見てもらい、運営推進会議の中で災害の備えを話し合ったり、地域住民に呼びかけて、合同訓練を実施したり、地域の防災訓練に参加協力するなど、少しずつ地域との連携や支援体制づくりが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	時間設定の変更をして実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備は、消防署、専門業者の点検を行っている。非常用食料は厨房が管理。備品は各現場で月1回チェックを行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の方との連携を図れるよう努めていく。福祉避難場所としての役割を果たしていけるよう努める。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域合同の防災訓練等を計画して実施し地域とのネットワーク作りに参加していきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	今後、事業所として地域の方々に認知症に関する情報を発信できるよう努めていく	/	/	/	複合施設に、地域住民から電話や来所での相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。市担当者や地域包括支援センターなどの関係機関と、運営推進会議などを通して、良好な関係を築いている。開設して約1年が経過し、管理者は、「市内の他のグループホームと交流を図っていきいたい」考え、相互の運営推進会議などにも参加できるように依頼していくことを予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	来所や電話での相談には、随時支援をしている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方の憩いの場所として提供していけるよう努める。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の人材育成などの研修実習の受け入れを行っていきけるよう努める。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会には、市担当者、包括職員、民生委員、家族の参加を得ている。地域活動を協働しながら交流を図っていきけるよう努める。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 8名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	381000139
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 伊予あいじゅ 凧
記入者(管理者) 氏名	岩佐 節子
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日



(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 家庭的な環境で日常生活支援や機能訓練を実施することにより、入居者に有する能力を生かしながら自立した生活を送れるよう支援してまいります。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 約1年前に移転新築された5階建ての高齢者総合福祉施設の2階部分に事業所はあり、建物の窓から、瀬戸内海や夕日の絶景が眺められるほか、市街地を見渡すことができる。新築の複合施設は気持ち良く、利用者は穏やかな生活を送ることができる。広々とした敷地内には、独自の愛寿四国八十八か所へんろ道が設置され、寺の番号と名称等が貼られた木碑が建てられ、海を眺めながら、散歩や足湯を楽しむことができるようになっていく。法人は、松山市を中心に県内で高齢者福祉施設や介護サービス事業所などを展開しており、開設1年目であるが、建物には特別養護老人ホームなどが併設され、管理者をはじめ、高齢者施設などで介護経験の豊富な職員のほか、看護師も配置され、利用者には安心感がある。調査調査日には、職員が利用者からゆっくと話を聞いたり、利用者同士が和やかにゲームや季節の飾りつけをするなど、利用者に寄り添いながら見守る職員の様子を見ることができた。地域の秋祭りの際に、複合施設の駐車場に、100名以上の子どもが参加した子供神輿の来訪があり、利用者と一緒に楽しむことができた。今後は、複合施設の利用者同士の交流のほか、広い駐車場や1階にあるイベントスペースを活かして、事業所の特徴を活かした地域との交流が行われていくことも期待される。</p>
--	---------------------------------	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活をされる中で会話、思いは大事にし職員間で共有している。	◎	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向などを聞き、基本情報の主訴や要望欄などに、記録を残している。また、日々の生活の中で、職員は声をかけ、利用者から思いや希望を伝えてもらったり、言葉を発することが難しい利用者には、表情や様子を観察したりしながら、思いをくみ取るよう心がけている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人と接しての表情、言葉、しぐさから要望を把握しようとしてあげれば安心、納得するか検討している。	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に同席させてもらい、本人の思いについて話させてもらっています。	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	基本情報、アセスメント表に記録して職員間で情報している。	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	まず、入居者の思いを重視しながら、いい方向にいくよう職員間で話合っています。	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居される前の面談で、家族、本人から生活歴を聞いたり、本人から、趣味や要望等を情報共有している。	/	/	◎	入居前に、可能な限り、管理者や計画作成担当者は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活のこだわりなどを聞き、フェースシートやアセスメントシートに取りまとめて記録をしている。また、入居後にも、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記を行うなど、職員間で共有をしている。さらに、入居前に利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスに至るまでの経緯や状態などの情報を提供してもらうこともある。アセスメントシートの情報は、介護計画の更新時に合わせて、更新をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で関わりから本人の状況を把握している。	/	/	/	/		
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の関わりを記録する中で、普段と違う言動等が見られたら具体的に記録して職員間で情報共有している。	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人との時間を作りゆっくと話しを聞き、本人の思いを把握している。	/	/	○	アセスメント情報や把握した情報をもとに、利用者にとって何が必要で、何を求めているかを、利用者や家族から意見や意向を聞くとともに、利用者ごとの担当職員や計画作成担当者を中心に、主治医や看護師、職員を交えて検討している。医師などの関係者が会議に参加できない場合には、事前に指示やアドバイスをもらうようにしている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日々の関わりの中で職員での情報共有を行っている。	/	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族からの意向、本人の要望に沿った介護計画になるよう努めている。	/	/	/	担当職員や計画作成担当者、看護師を中心に、把握した情報をもとに、カンファレンスの中で話し合い、介護計画を作成している。利用者や家族から出された意見や意向に沿えるような個性のある計画の作成を心がけている。また、主治医等から指示やアドバイスをもらうほか、職員から出された意見や提案をサービス内容などに反映をさせるように努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族、本人の意向に沿った介護計画の作成にあたって日々の関わりの中で職員からの意見を聞いたり、アイデアを加えたりしながら作成している。	○	/	/	/		
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	現在、重度の方は大所設けであるが、日々の生活の中で運動機能が低下をされている方には、相談しながらその状態にあった支援を行っている。	/	/	/	/		
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ感染対応として、家族、地域の方の直接支援はできていないが、家族からの対応方法をアドバイス頂いたりしている。	/	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録をする時に介護計画の内容の確認をするようにしている。	/	/	/	○ ユニットごとに開催するカンファレンスに参加し、職員は介護計画の内容の把握に努めるとともに、介護計画と日々のケア記録が利用者の個別ファイルに綴じられ、計画を確認することができるようになっている。計画に沿ったサービスの実施状況を、計画に日々の記録に残すとともに、実施できなかった場合には、理由を記録に残している。また、月1回実施するモニタリングの際に、サービスの実施状況を参考にして、利用者の現状の確認をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿ったケアができなかった時には、その理由を記入して職員間で共有している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。	/	/	/	◎ 入居後に暫定の介護計画を作成し、観察をしながら状況に応じて見直しをするとともに、その後は、短期目標などの期間に合わせて、6か月を1回を基本に、計画の見直しをしている。また、担当職員を中心に、月1回モニタリングを実施し、利用者の現状の確認をしている。さらに、利用者の状態に大きな変化が生じた場合には、随時話し合って見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状況に変化が生じた時は、家族、職員と話し合い現状の介護計画に新たに追記をして作成するようにしている。(現時点では、対象者はなし)	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ワーカー会を1回/月行い気付いた事の話合いをしている。毎日の申し送りで、入居者の状態の報告をして職員共有を行っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニット合同でワーカー会を開催し、情報共有をするほか、課題などを意見を出し合いながら話し合いをしている。事前に、なるべく多くの職員が参加できるように日程調整を行い、職員に検討する議題を出してもらうなど、有意義な会議となるよう努めている。また、参加できなかった職員を含めて、会議録を確認してもらい、情報共有に繋げている。さらに、緊急案件のある場合には、その場にいる職員同士が相談して迅速に対応している。対応した内容は記録に残すとともに、重要事項は口頭で伝え、全ての職員で共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議に参加できる職員に限られているので、あらかじめ議題について、また日頃の事で気付いた事をメモに書いて司会者に渡すようにしました。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	日程調整はするが、参加できる職員に限られているので、会議録を職員に回覧して確認してもらっている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日の朝夕の申し送りを行っている中で、重要な事項は、申し送りノートに記入して共有している。	○	/	/	◎ 日勤と夜勤の交代時に、申し送りノートを活用して、朝夕の申し送りを実施している。出勤時等に必ず申し送りノートやメモを確認し、確認後に職員は押印するなど、情報や伝達の漏れがないようにしている。
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	介護記録に内容の確認と本人に直接「何がしたいですか?」と聞いている。	/	/	/	◎ 日々の服装選びや余暇時間の過ごし方、飲み物など、日常生活の様々な場面で、職員は利用者に声をかけ、一人ひとりのペースや希望に合わせて、選択や自己決定してもらえよう支援をしている。また、利用者は好きな花を生けたり、ナンプレを解いたり、職員がレクリエーションを提案するなど、楽しみや喜びのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	まず、提案、声掛けて本人に決定してもらうようにしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人の生活のリズムを第一にまず、声掛けをしてできる限り本人のペースに合わせて支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	まず、声掛けをして目を合わせ、利用者から明るい言葉が返ってくるような言葉がけと雰囲気作り心がけている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	本人の表情、反応を見ながら、本人の言葉に協調しながらできる限り本人の意向に沿った生活が送れるように寄り添い支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	入居者への会話は、基本敬語で話すようにしている。多少方言が入ったりはしている。デリケートな事に関しては、耳元で話すように支援している。	◎	○	○	◎ 人権や尊厳を内部研修等で学び、職員は利用者を尊重した言動に努めている。耳が聞こえない利用者には、プライバシーに配慮して、筆談でやり取りを行うなどの工夫をしている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、入室の際に、ノックや声かけをしてから必ず入室することを職員に周知徹底を行い、不在時にも、リビングにいる利用者に声をかけて、了解を得てから入室をするようにしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心に配慮しながら声掛け、介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には、ノックをして声掛けしながら入り、居室に入る時は、あらかじめ本人に了解を得て入っている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報漏洩に関しては、入職時に誓約書を交わしています。類の管理も十分な配慮を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	共に生活するという意識を持って支援している。できる事には協力してもらっている。入居者は知恵袋を持っているので、人生の先輩として分からないことは、聞いたりしながら協働生活をしている。	/	/	/	約1年前の事業所の開設時に、ほとんどの利用者は、自宅や病院から入居に至った経緯があり、現在は利用者同士の大きなトラブルは起こっていない。職員は利用者の性格や関係性などを把握し、配席を考慮するなどの工夫をしている。また、食事の下膳や洗濯物干しを一緒に手伝うなど、利用者同士が助け合う場面も見られ、職員は温かく見守りをしている。さらに、事業所には女性の利用者が多く、男性の利用者が孤立をしないように、職員はこまめな声かけを行い、全ての利用者が和やかに過ごせるような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が共同生活する環境に慣れてくれたのか、隣同士よく話をされるようになった。微笑ましく感じる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	以前は、グループホーム(集団生活)に馴染めず活気もなく入居者間の会話もなく、職員の声だけしない時期もあったが、今は、集団生活に慣れてきたのか隣同士、離れたテーブルの方との会話もあり、温かい雰囲気を感じるようになった。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	入居者同士のトラブルは、現時点はありませんが、もしそのような事態になれば、間に入り、お互いにトラブルの原因を聞いてお互い不安がないよう支援します。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	面談時の家族からの情報と、入居者されてから本人との会話の中から聞き取りながら生活歴を把握していくようにしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ感染対応の為、支援できていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ感染対応の為支援できていない。	○	×	○	感染対策が続き、外出制限は設けられていたが、徐々に緩和され、天気の良い日には、屋外に出て敷地内を散歩したり、外気浴をしたりすることができている。訪問調査月には寒い日が続く、屋外に出ようとする利用者は少ないが、敷地内にある遊歩道に、独自の愛寿四国八十八か所へんろ道が設けられ、利用者は散歩ができるほか、足湯を楽しむことができるようになってきている。利用者の納経帳が用意され、暖かくなれば、お参りすることを予定している。また、数名ずつの利用者で、ドライブに出かけて、双海まで海や菜の花を見に行き、人混みのない場合には、車から降りて景色を見て楽しむなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。春には、花見に出かけることを予定している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染対応の為支援できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々の関わりの中で、入居者の一人一人の認知症状を把握しながらいつもとは違う言動等があれば、他職員に相談しながら、要因を引き出し支援している。	/	/	/	利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、アセスメントシートに詳細に記載し、職員間で共有をしている。できることは自分でしてもらうほか、職員が必要以上に手や口を出し過ぎず、一緒に行ったり、見守りやできない部分のサポートをしたりしている。また、歩行や体操などを取り入れたり、考えながらナンプレをしたり、生活リハビリを取り入れるなど、利用者の心身機能の維持や向上が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活での機能低下防止の為、食事前にリハビリ体操、口腔体操をしたり、歩行練習、散歩を促し1階に降りたりと気分転換をしている。日々、残存機能が維持できるように声かけしながら支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	アセスメントを共有し、できることはゆっくりと見守りながらしてもらうように声掛け支援をしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常生活の中で楽しめるような余暇活動を提供している。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、テーブル拭き、新聞でのごみ箱づくりなど、職員は声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	日常生活の中で、レベル低下の症状が出現してもその症状の中でできる事を見出し、少しでも笑顔が見えるよう支援している。	○	×	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	持って来られている衣類で、好みの把握し、着用時に「よく似合っていますね。若返って見えますよ。」声掛けしたりと褒めたりしながら他の入居者にも影響があるよう声かけている。				整容の乱れや衣服の重ね着などが見られた場合には、職員は利用者のプライドに配慮をしながら、さりげなく声をかけてフォローするなどの対応をしている。各居室には洗面台が設置され、起床時に、職員は声をかけ、服を着がえ、整容や身だしなみを整えている。中には、自分で化粧をして、おしゃれを楽しむ利用者もいる。また、月1回訪問理容の来訪があり、1階にある専用の部屋で、鏡を見ながら好みの髪型に整えてもらっている。さらに、重度の利用者も楽な姿勢で、負担がかからないように散髪をしてもらったり、家族が持参した好みの服を着たりするなど、本人らしさが保てるような支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入居者一人ひとりの個性を大事にし服の色等把握し、更衣時に希望に沿うよう更衣を支援したりしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	タンスから似合いそうな洋服を何着か出してあげて、本人に提示してあげその中から、選んでもらうよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	施設内行事の時は、行事に合った洋服に着替えてもらったり楽しんでもらえるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食事時の食べこぼしや衣類の汚れなどには、注意を払い、更衣するときはさりげなく声かけ支援をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設に来てくれる理美容師の方に希望等伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人から要望が言えない方は、元気な時の服装、髪型にしてあげるよう支援している。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	施設で一括調理となっている。ユニットで炊飯は行っている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設で一括調理となっている。ユニットで炊飯は行っている。できる事を手伝ってもらって準備をしている。			△	複合施設内にある厨房で調理された温かい食材が事業所に届けられ、各ユニットで炊飯を行い、利用者に食事を提供している。利用者は下膳やテーブル拭きなどを手伝うことはあるが、調理や食材の下準備などに携わる機会はないため、月1回利用者と一緒におやつ作りをしている。入居時に、アレルギーの有無を把握するとともに、法人の栄養士が、利用者の嗜好調査を行い、献立の中に反映するようにしている。茶碗や箸は、入居時等に持参した利用者が使い慣れた物を使用するとともに、食器類は事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策もあり、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、利用者とは別の場所と時間帯に持参した食事を摂っている。また、リビングにあるホワイトボードには、その日3食の献立が分かりやすく記載され、食事中にテレビを消して、ゆったりと食事を味わえるような雰囲気づくりをしている。さらに、食べにくいようなメニューがある場合には、栄養士にその都度伝え、対応してもらうこともできる。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	入居者と一緒に買い物等、調理、盛り付けはできませんが、おやつ作りを一緒にし、卵を割り、混ぜる、ホットプレートにのせ、ひっくり返すの工程を楽しみました。おいしく焼き上がり喜ばれた。				
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族からの聞き取りにてアレルギー等の有無を厨房と情報共有し、食材の変更、メニューの変更しながら提供している。				
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギー等の把握をしながら、季節感を感じたり、昔懐かしい献立になるよう工夫している。			○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	入居者のお一人、お一人の咀嚼、嚥下状態等を把握し、厨房と連携しながら、食事形態の変更を行い、対応している。おいしそうに見えるように盛り付けの報告をしている。				
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、湯飲み、はしは、自宅で使用していたもので食事を摂ってもらっている。			○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	一緒に食事は出来ていないが、入居者お一人お一人が安心して食事が摂れるよう見守りしている。今後は、職員も同じ空間で入居者と一緒に食事が摂れるよう努める。			△	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	×	該当者がいない	◎		○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立を伝え、配膳した時に「おいしそうですね。」とか食事の進み具合を見ながら声掛けしながら1日通じて確保できるように支援している。				
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	個々に声掛けしながら食事の形態や水分摂取量の少ない方には、時間を置きながら促している。				
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一括調理なので、栄養士が1日のカロリー計算を行い、バランスの取れた食事の提供ができています。			○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	施設厨房での調理なので、厨房で定期的にチェックを実施している。事業所では、冷蔵庫内のチェックを定期的に行い、家族の差し入れのおやつ等の賞味期限もチェックしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性、重要性は、勉強会資料を読んで理解しているため、食後は、お一人お一人声掛けして、洗面台へ誘導し、支援している。				歯科医から指示やアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、居室にある洗面台で、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや磨き残しなどの介助をするともに、口腔内の状況の確認をしている。中には、自分で歯磨きができる利用者が、口を開けて口腔内を見られることを拒む利用者もあり、口腔内の確認ができないため、歯科医に相談するほか、声かけの仕方などの様々な工夫を重ねている。また、利用者や家族が希望する場合には、義歯の不具合など、訪問歯科の診療を受けることもできる。管理者は、「入居時に、利用者に歯科受診をしてもらい、口腔内の状態を把握し、異常時にすぐに気付いて対応できるようにしたい」と考えている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、口腔内の確認をしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	他事業所が参加している毎月1回開催の歯科医の研修の資料に目を通して知識を得るようにしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、声掛けしながら義歯の洗浄手入れを行っている。夜間は、歯洗浄剤で除菌をしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後の支援を行い、不具合があれば看護師に報告して家族に連絡して状態を話して訪問歯科で治療を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄支援を行っている。排泄のリズムを把握して、トイレ誘導を行っている。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状態やタイミングに合わせて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。こまめなトイレ誘導をすることにより、紙パンツとパッドを使用していたが、パッド使用の必要がなくなった利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、紙パンツやパッドなどの適切な排泄用品の使用や変更を話し合ったり、パッド類を過剰に使用していないかを検討したりするなど、利用者一人ひとりに応じた排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は理解している。排泄記録から看護師に報告している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々に排泄パターンを把握して誘導し介助している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレの場所がわからない方には「トイレ」の表示をしている男性で立位での排泄行為の方には、座ってしてもらうよう声掛けしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	足元が不安な方には、便座に座位を取るまで介助している。できる限り排泄はトイレでの習慣の支援をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	入居者お一人お一人に合わせて定期的に声掛け、誘導支援を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	時間帯に合ったものを選択し本人に同意を得ながら支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入居者に同意を得ながら適時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	できる限り薬に頼らず、自然排便ができるようリハビリ体操をしたり歩行練習をしたりと身体を動かすよう声かけている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回の入浴支援を行っている。入浴時には、個々に声掛けをして、了解を得て、誘導している。その方に合った、湯加減にしている。長さも、声掛けしながら様子を見ながら行っています。	◎		○	週2回、午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。利用者の状態や希望に応じて、入浴できる時間帯や曜日、湯の温度、湯船に浸かる長さなど、可能な範囲で柔軟に対応をしている。浴室にはリフトが設置され、立位が困難になった利用者にも、安心安全に湯船に浸ることができるようになっている。また、家族に持参してもらい、好みのシャンプーなどを使用することができ、利用者にもリラックスしてもらいながら、入浴できるような支援を心がけている。今後、管理者は、「週2回以上入浴したいと希望があれば、時間帯の相談の必要はあるが、対応していきたい」と考えている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	個浴を行い、ゆっくりと入浴できるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できる事は、自分で頑張ってもらおう。(着脱、洗身)				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いすることのないよう声掛けをしている。返事が重い場合は、時間を置いて再度声掛けしている。拒否をされる場合は、翌日、再度声掛けするように努めている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い健康状態を把握し入浴支援を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンは、把握できているが、新入居者に関しては、介護日誌を確認しながら把握している。	/	/	/	入居前から継続して、睡眠導入剤などの服薬をしている利用者があるものの、主治医に状態を伝えてから相談を行い、1日の過ごし方や支援方法の検討を行い、副作用などの考慮するなどの総合的な支援に努めている。中には、眠れないことが続き、不穏な状態の利用者には、医師に相談して、服薬に繋がる場合もある。また、外気浴や体操、歩行などを取り入れ、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転で不眠になっている方には、日中の過ごし方に工夫をし、活動ができるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	気になる入居者に関しては、訪問診療時に医師に相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入居者お一人お一人の状態に沿って休息がとれるように声掛け等しながら支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人からの要望がある時は、支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙等が届いてご自分が読まれたり、代読したり等支援し、「手紙を書いてみませんか?」「電話をかけてみませんか?」と声かけている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望される時は、きちんと支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人からの要望がある時は、支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に協力が得れるように努めている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	契約時に、当グループホームは、おこずかいの所持はできないと説明し、了解を得ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染予防のため家族さんとの関わりができない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を預かれないことを家族さんに説明している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	同上	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	同上	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人、家族の状況に合った支援していく。	◎	/	○	感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、現在は時間や人数等の制限付きで、1階ロビーで家族との面会ができるようになってきている。また、その時々利用者や家族の希望やニーズが出された場合には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	グループホームは2階にあり、現在コロナ感染対応中。2月より、1階ホールにてアクリル板で対面面会を実施	◎	○	○	5階建ての複合施設の2階部分に事業所はあり、玄関アプローチの部分がシンプルで、すっきりとした佇まいとなっている。事務所にいる職員はガラス張りの玄関扉から、来訪者に気づき、声かけをしている。また、十分な広さの駐車場が完備され、家族等は車で来訪しやすくなっている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ユニット内は、季節感が味合えるような環境作りを努めている	◎	○	○	<p>広くて明るいきらびやかな雰囲気には、ソファが置かれ、ゆったりと利用者はくつろげるようになっている。各ユニットにある窓から、海の絶景や夕日を眺めることができる。また、各ユニットに春を感じる装飾が行われ、利用者に季節を感じられるようにしている。開設して約1年の複合施設の建物は気持ち良く、清掃や換気、整理整頓が行われ、空気清浄機が置かれるなど、快適な空間となっている。さらに、敷地内には独自の愛寿四国八十八か所へんろ道や足湯が整備され、利用者は海の景色を眺めながら、散歩をすることもできる。複合施設の1階にはイベントスペースも設けられている。</p>
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	消臭剤の使用もあり、不快な臭いには気を付けている。清掃も定期的に行っています。	◎	◎	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとの壁面構成にしたり、心地良く生活できるように室温設定している。	◎	◎	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブルでは、同じテーブルの皆さん、気の合う方と会話をしたり、物作りをしたり、塗り絵、パズル等を用意したりしている。	◎	◎	◎	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	在宅で使用されていたものを持ってきて頂き、生活してもらっている。	◎	◎	◎	居室には、ベッドやタンス、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者は、テレビや馴染みの家具、雑貨類を持ち込むことができる。中には、得意な洋服で、自分で作った服を飾ったり、好きな本を並べたりするなど、個性のある居心地の良い空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	お一人お一人声かけを工夫し、できることが継続できるように支援している。	◎	◎	◎	<p>居室の入り口には、小さめのネームプレートと手作りの飾りを付けてしている。現在、自分の居室の場所を迷う利用者はいない。トイレの表示も、ピクトグラムで分かりやすく表示している。また、居室のタンスには、仕分けが分かりやすいように、衣類別の表示を貼っている利用者もいる。さらに、カレンダーは数字が大きく、見やすい物を使用している。加えて、新聞や雑誌類、色鉛筆などを利用者の目につきやすい場所に置き、手に取りやすいようにしている。</p>
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	使い慣れた茶碗、湯呑などを使用してもらっている。今後に向けてプランター栽培等を行う予定にしている。	◎	◎	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	総合福祉施設内の2階にグループホームがあり、ユニット毎にロックがかり、エレベーターにもロックがかり自由に行き来はできないのが現状です。居室の鍵はかけていません入居者の気持ちを心理的不安、閉塞感、を考えて定期的に1階フロアへ散歩に出かけたり、イベントは1階のホールで開催するようにしている。	◎	◎	◎	<p>複合施設の玄関は自動ドアで、日中に屋外から入ることができるが、2階にある各ユニットの出入り口はオートロックで施錠され、タッチパネル式で開錠するようになっている。中には、気持ちが落ち着かない利用者もおり、声かけをする職員の様子が見られ、外に出たい気持ちや不安感に寄り添いながら話を聞いたり、一緒に1階に降りて屋外を散歩したりするなどの対応をしている。</p>
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時に2階に有る為、安全を考慮してオートロックで施錠しているとの説明をして了解を得ている。	◎	◎	◎	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の情報を見ての把握と日々の申し送りでの共有をしている。	◎	◎	◎	<p>職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。</p>
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定と朝夕の申し送り等で情報共有を行っている。	◎	◎	◎	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があればまず、看護師に伝えて状態を医師に報告して対応している。	◎	◎	◎	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時の契約時に以前の主治医の受診を希望されるのか訪問診療を受けるのかの確認をとるようになっている。	◎	◎	◎	<p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	少しでも体調の変化があれば、看護師を通して医師の判断をお伺いしている。その旨、家族、本人に伝えるように支援している。	◎	◎	◎	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時は、必ず家族に連絡して了解を得た上で受診を受けて受診後は家族に連絡している。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	×	該当者なし(入院になる場合は、情報提供を行う。)				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	×	同上				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の関わりの中で、いつもと違うことがあれば、看護師に報告するようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも看護師に連絡がとれるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定、状態観察を行い、早期発見、早期治療ができるよう努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	職員は、一人ひとりの薬についての用法、用量の理解はしている。状態変化があれば、記録に残して、看護師、管理者に報告し、医師の指示を確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬マニュアルの研修会を通じ、服薬の重要性を学び、職員が2重チェックを行い、服薬前にお名前を呼び、薬の確認をし、飲み込むの確認するよう支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化、日々の様子観察をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	該当者なし(契約時、状態変化時に事前意向の確認をとるようにしている。)				事業所では、「重度化した場合における対応の指針」「看取り介護指針」を整備し、入居時に家族等に対応できることなどを説明し、同意や意向の確認をしている。訪問調査月に、状態が変化した利用者があり、家族から「馴染みの環境で看取り支援を行ってほしい」との希望が出され、訪問調査日には、家族と主治医、事業所の看護職員を交えて、カンファレンスが予定されていた。事業所が開設して初めての看取り介護となるが、約半数の職員は、以前勤務していた事業所や施設で看取り支援の経験があるほか、令和6年に入り、看取り支援の研修を実施している。また、主治医も事業所での看取りに協力的で、医療連携を図りながら方針を共有し、穏やかな終末期を迎えられるようにチーム体制で支援に取り組んでいる。看取り期には、居室内で家族と一緒にゆっくりと過ごすことができるようにしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	該当者なし。(重篤状態になれば、医師と家族と直接面談し、状態の説明を聴くようになっています。)	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	話し合いにより、どこまでの支援ができるか話し合い家族に同意をいただき看取り介護として精一杯支援したいと思っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	×	該当者なし。医師から看取りとして支援するようにと指示があれば、家族との話し合いにより看取りのケアプランを作成する。看取りのケアプランに基づいて支援していく。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	該当者なし。家族の意向もしっかりと聞き、医師、看護師、介護職員間で話し合いながら支援ができるよう取り組んでいく。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	×	該当者なし。家族との連絡を密にとりながら思いを共有できるように努めていく。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	施設内研修会に参加し、感染症の予防、発生時の対応は施設全体で取り組んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルスの感染症に関してシミュレーションを行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政、保健所からの情報、産業医、インターネット等を通じて情報を入手して対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は、清潔保持ができるよう声掛け、支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	コロナ感染対応中で、ユニットと一緒にという状況になれない窓越し面会時に持って来てくれたり、受付に本人の好きなおやつ、本、雑誌、新聞等を届けてくれている。				全ての家族に、運営推進会議の案内を送付し、今年に入り、会議に家族してもらえるようになってきている。感染対策で、一部制限が設けられているものの、複合施設の1階ロビーを活用して、家族との対面の面会ができるようになってきている。また、令和5年12月から事業所の「なぎ・みお便り」の発行を開始し、写真入りで利用者の日常の様子が家族に伝わるようにしている。感染対策で、開設当初から家族が事業所内に入る機会がないため、今後は、居室の様子を伝えたり、職員の紹介を掲載したりするなど、家族が知りたい内容を事業所便りに掲載していくことも期待される。さらに、家族への毎月のモニタリング表の送付に合わせて、管理者は、利用者の写真を同封することを予定している。加えて、連絡手段を家族の要望に合わせて、電話連絡のほか、メールやSNSを活用できるようにするなど、職員間で検討していくことも期待したい。加えて、複合施設内には、希望があれば、宿泊できるように家族宿泊室を完備している。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染対応中で、活動に参加は、できないが、解除時は家族と一緒に活動ができるよう計画を立てていく予定。	○		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	「便り」の発行は準備中ではあるが、今後は、定期的に発行して生活ぶりを情報発信していきたい。窓越し面会時や電話がかかって着た時には、生活ぶりの話をして安心してもらっている。	◎		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	日常生活の様子(認知症状、接し方等)を説明しながら、より良い関係性が保てるよう支援していく。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のモニタリングに行事等情報提供している。運営上事柄の通知欄を作り情報発信していきたいと思っている。	×				△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に家族には、起こり得るリスクの説明はしている。日常生活の中で少しでも活動のある生活をおくっていただく説明し理解を得るようにしている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽に話しやすい雰囲気を作る。家族との面会時に職員から積極的に声掛けをしながら職員と家族との信頼関係を構築していく。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	その都度説明を行ったり、文書の送付している。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の事例はないが、そういう状況になれば家族に必要な説明を行い、納得、了解を得る。次の入居先の紹介等支援できるよう努める。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時の内覧会に地域の方々から来られ、見学された。運営推進会議に参加していただき、事業所の目的や役割などを説明し、理解してもらった。		○		複合施設の周辺には民家や畑などがあり、事業所のある建物が津波対策もあり、少し高台に立地している。散歩の際に、日常的に地域住民と出会うような環境までではないが、複合施設として、自治会に加入し、管理者は、「地域行事にできるだけ参加していきたい」と考えている。地域の秋祭りの際に、複合施設の駐車場に、100名以上の子どもが参加して、子供神輿の来訪があり、利用者と一緒に楽しむことができた。複合施設の利用者同士の交流のほか、広い駐車場や1階にあるイベントスペースを活かして、事業所の特徴を活かした地域との交流が行われていくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ感染対応で、地域の活動や行事への参加等はできていないが、感染症が解除になると地域での活動、行事に参加していきたいと思っている。今年の10月の祭りには、地域の子供神輿が玄関前に神輿を据えて、祭りの気分を味あった。		×	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	今年度の10月には、子供会が主催で、子供神輿がやって来て駐車場に据えてくれて、入居者の皆さんは、祭り気分に触れることができた。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	感染状況を確認しながら地域の方々との交流を図ってきたい。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	出勤、退勤時近所の方に会えば、車内からも会釈をし、親近感が持てるよう努めている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	感染対応中の為、ボランティア、地域の方の施設内での支援は遠慮してもらっているが、4年ぶりに秋祭りで子供神輿を玄関前に据えて頂き、愛護班の方、地域の子供が150人程来られて賑やかだった。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	感染対応中の為、入居者の外出には制限あり。理美容は、月に1回外部から来てもらっている。感染状況を確認しながら関係を深めているよう努めます。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	民生委員の方には、参加してもらっています。家族の参加は、感染状況が5類になり、1月の運営推進会議には家族に参加の手紙を出し3名の希望者あり。最終2名の方は都合が悪くなり、1名の方が参加され、意見交換ができました。	○	/	/	運営推進会議は、複合施設の1階会議室で、奇数月を基本に開催をしている。書面開催となることもあったが、対面での会議が開催できるようになり、家族のほか、民生委員や市担当者、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開催をしている。会議では、事業所や利用者の様子を写真で説明しながら、事業所の取り組みなどを報告を行い、参加メンバーから意見や提案を出してもらい、意見交換をしている。終了後には議事録を作成し、参加メンバーと全ての家族に送付をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	入居状況、介護事故、ひやりはっこの発生状況の説明、取り組み(写真)他意見交換を行い、会議録としてまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	今後も、テーマを決め日程調整しながら進めていけるよう努めていく。	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人理念に基づき、地域密着サービスとしての事業所としての理念を職員と考え実践できるよう努めている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	今後、グループホーム便りに載せて家族、運営推進委員会に配布するように努める。	△	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	今年度は、特養の研修に代表が参加したり、研修資料を回覧しての取り組みがほとんどであったので、今後は、事業所としての研修ができるよう努めます。	/	/	/	法人規模が大きく、代表者が事業所に来訪することは少ないが、日常的に、複合施設の施設長と副施設長の来訪があるほか、日頃から管理者は副施設長に相談をしたり、職員から出された意見などを伝えたりすることができている。職員の聞き取りから、「休暇のほか、休憩時間などしっかりと確保してもらっている」との意見が聞かれ、待遇にも満足をしている。また、定期的に、職員にストレスチェックの実施するほか、職員から相談がある場合には、管理者等は迅速に対応できるような環境づくりにも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体で介護技術や知識が向上に努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格手当や給料のベースアップ、法人独自の時間数に対してポイントを付与し、ポイントが貯まると商品券等に交換できるシステムがあります。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	感染対応で、自粛している。感染状況を確認しながら今後はネットでの研修に参加できるように努める。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックの実施により環境整備を行っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	不適切チェックシートの活用をし身体拘束に繋がらないように努めている。	/	/	◎	定期的に、内部研修を実施し、どのような行為が虐待や不適切ケアにあたるのか繰り返し学び、職員の理解促進に努めている。また、3か月に1回不適切ケアチェックシートを活用して、一人ひとりの職員が記載するとともに、チェックができていない部分を振り返り、今後どのようにしていかを考えられる内容となっている。また、気になる行為が見られた場合には、申し送りなどを活用して、話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝夕の申し送りで、意見を交換したりしながら日々の支援にあたっている。月1回のワーカー会で話し合ったりしながら支援している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者が気を付けて声掛けしている。ストレスチェックの診断(1/年)をしてもらい、各自に結果を渡し把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束の研修を受けて理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	研修会、ワーカー会を通して支援に繋げるように努める。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	家族から身体拘束等の話題はないが今後、家族から身体拘束の要望があれば、施設の身体拘束の廃止が基本にあり、支援の具体的な内容を話して理解してもらおう。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見制度について研修する機会を持ち、知識の習得に努めています。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	事例はないが、相談があれば地域包括支援センターや専門機関に連絡するよう連携体制を築いていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変、介護事故発生時のマニュアルはある。勉強会、シミュレーション等を行い、知識を得るよう努める。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的にシミュレーションを行い、慌てず適切な対応ができるよう努める。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハットと思う場面を観たり、感じたりすると、書式に記載し申し送りし、周知するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	お一人お一人の状態の把握に努め、リスクを検討し事故予防に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応の書式に記録して、どのような対応にすべきか考え、改善をするよう努める。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情の内容をまとめ、どのような対応をすべきは話し合い速やかに対応していく。また、複雑な問題に関しては法人内での話し合いをし、必要であれば、専門機関に相談する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の内容を検討し速やかな対応を行い、家族には、支援方法を伝え経過、結果を伝え、納得を得よう話し合いができるよう努める。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時、電話があった時には、要望等を聞いています。今後は、運営推進会議に数名の家族、入居者に参加していただき直接、意見・要望を聞くよう努めていく。	◎		◎	日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者に声をかけ、意見や要望を聞いたり、言動や表情から思いなどをくみ取りたりするよう努めている。家族からは、介護計画の更新時のほか、電話連絡時や面会時に、職員は利用者の近況を伝え、意見や要望を聞くようになっている。今回の外部評価の利用者家族等アンケートの結果を受け、管理者等は、家族から出された意見を真摯に受け止め、対応していくことを考えている。また、管理者は職員と一緒に業務に従事し、日常的に職員から意見や提案を聞き、検討をして対応をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	直接、苦情、要望を聞き、速やかに対応ができるようにしている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	直接、職員の意見、要望を聞くようにしている。改善すべき事は、職員間で話し合うようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日の支援をする中で、疑問等が出ると、他職員と話し合いながら支援している。業務中心にならないよう入居者中心のケアができるよう努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設独自の自己評価を行っている。				今回が、事業所として初回の外部評価で、サービスの評価結果をもとに、目標達成計画を作成するとともに、運営推進会議の中で、参加メンバーや家族に報告を予定している。また、目標達成の取り組み状況の経過を伝えながら、意見やアドバイスをもらう機会を設けるとともに、モニターとしての役割を担ってもらえるように取り組みを予定している。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回初めての評価を(自己・家族・地域・外部)の結果を踏まえて、現在のグループホームとして実現可能な計画を作成して、職員が一丸となって取り組んでいくよう努めていく。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	今回、開設して初めての外部評価です。運営推進会議に報告し、意見等を聞き、改善していけるよう努めていく。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画が届きましたら、ワーカー会の議題にあげ検討するようにします。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し職員の意識を高めるように努めている。	/	/	/	事業所のある複合施設は、市行政から福祉避難所に指定され、水や食料などの備蓄品を用意している。建物は海に面し、津波の危険性がある場合には、2階以上に垂直避難を予定している。複合施設と合同で、消防署の立ち会いを得て、火災等を想定した避難訓練を実施し、利用者に見立てた人形を活用して、2階にある非常階段を使用して、避難を体験している。今後は、避難訓練の様子を運営推進会議の参加メンバーや家族に見てもらい、運営推進会議の中で災害の備えを話し合ったり、地域住民に呼びかけて、合同訓練を実施したり、地域の防災訓練に参加協力するなど、少しずつ地域との連携や支援体制づくりが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	時間の設定の変更しながら実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備は、消防署、専門業者の点検を行っている。非常用食料は厨房が管理。備品は各現場で行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	今後、コロナ感染の状況を確認しながら、地域の方との連携を図れるよう努めていく。福祉避難場所としての役割を果たしていけるよう努める。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域合同の防災訓練等を今後は計画して実施し地域とのネットワーク作りに参加していきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	今後、事業所として地域の方々に認知症に関する情報を発信できるよう努めていく。	/	/	/	複合施設に、地域住民から電話や来所での相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。市担当者や地域包括支援センターなどの関係機関と、運営推進会議などを通して、良好な関係を築いている。開設して約1年が経過し、管理者は、「市内の他のグループホームと交流を図ってほしい」考え、相互の運営推進会議などにも参加できるように依頼していくことを予定している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	来所での相談、電話での相談には、随時支援をしている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ感染状況を確認しながら地域の方の憩いの場所として提供していけるよう努める。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	今後は、研修実習の受け入れを行っていけるよう努める。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会には、市担当者、包括職員、民生委員の方の参加を得ている。今後は、地域活動を協働しながら交流を図っていけるよう努める。	/	/	○	